



エジプトの革命

2011年1月25日、自宅から車で10分のところにある**タハリール広場**（カイロ中心部にあり官庁やエジプト考古学博物館がある）は、大勢の人々で埋め尽くされていました。それは、30年近く政権の座についてた**ムバラク大統領の退陣を求める大規模デモ**に参加した人々でした。デモは、ムバラク大統領が辞任を表明する2月11日まで続き、数百万人の市民が集まりました。これを「**エジプト革命（2011年）**」と言います。

この革命の中心は、若者でした。なぜ、若者は革命を起こしたのでしょうか。ムバラク政権下での人々の暮らしは、右の通りでした。**若者を中心に自分の将来への不満や不安**を抱えていて、**自分の国をよくしたい**という思いから立ち上がりました。ムバラク大統領は、この市民を抑えることができず退陣を表明しました。選挙という民主的なやり方ではありませんが、市民一人一人の力で政治を変えたのでした。

革命前後のエジプトは、治安維持機能が著しく低下し、大変危険な状態でした。警察も自分たちが襲われるので逃げ出します。通信機能も一時遮断されました。信号機ではなく、警察官が手で交通整理をしているエジプトでは、交通が混乱します。ゴミの回収にも来ませんので、街がゴミであふれかえりました。そこで、**若者は自主的に交差点に立って交通整理**をしたり、ごみを片付けるためにトラックを借りてきて**ゴミを集めて処分したり**し始めました。また、夜は**交代で警備**をしたり、道路にペンキで色を塗るなどして**街をきれい**にしたりしました。

なぜ、若者を中心とする人々は、このような行動をしたのでしょうか。革命を起こした時の気持ちを右のように語っています。

読んでわかる通り、**自分の国と将来に、明るい希望をもてた**ことが、このような行動をとる原動力となったのです。

現在のエジプトは・・・

エジプト革命の後、政権に就いたモルシー大統領ですが、約1年で政権の座から退き、現在、シシ大統領がエジプトを治めています。現在の政治に対して革命を担った若者は、次のように語っています。

「失望した、何も変わらなかった、もっと悪い国になった。」確かに、現在のエジプトはいい方向に向かっているとは言い難い状況です。でも、若者たちは、私たち日本人にこう言います。**「日本は、確かにエジプトより豊かで素晴らしい国だ。でも、日本人は自分たちの手で革命を起こしたことはないだろう。私たちは革命を起こしたんだ。」**私は、この言葉を聞いて、エジプトの若者のエネルギーや自分たちの国に対する熱い思いを感じました。それと同時に、私はどれだけ日本という国に誇りをもっているのだろうかと考えてしまいました。**みなさん、自分たちの国、日本に、誇りをもっていますか。**

<ムバラク政権下での暮らし>

- ・大学を卒業しても仕事がない。
- ・好きな仕事を選べない。
- ・お金もちの子どもだけが仕事がある。
- ・公平ではない。
- ・生活が貧しい（貧乏）。
- ・物価が上がっている。
- ・自由がない。

<革命を起こした時の気持ち>

- ・自分たちの力で政治を変えるなんて信じられなかった。
- ・生まれて初めてエジプト人としての誇りをもった。
- ・エジプトは変わるという希望をもった。
- ・自分の夢がかなうと思った。
- ・これから先、また政治が悪くなったら、みんなでタハリールに集まればいいんだ。